

## 環境

気候変動は社会の持続可能性に影響を及ぼす地球規模の課題で、水や資源循環の課題とも密接に関連します。パーパスを実現するうえで地球環境保全に取り組むことは欠かせません。富士通グループは、バリューチェーン全体で環境負荷低減とリスク最小化を徹底し、またお客様と共に環境課題を解決していくことで持続可能な社会の実現に貢献します。

詳細についてはこちらをご参照ください。  
<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/>

### 目標

#### ありたい姿

グローバルな環境リーディング企業として社会的責任を果たす。気候変動対策としてパリ協定の1.5℃目標の達成と、革新的なソリューションの提供による、資源の有効利用を含めた環境課題解決に貢献する。

#### 2022年度目標

社会的責任の遂行と環境課題解決への貢献

- KPI**
- 事業所におけるGHG排出量のSBT1.5℃相当の削減
  - 事業活動に伴うリスクの回避と環境負荷の最小化
  - ビジネスを通じたお客様・社会の環境課題解決への貢献

### 目標達成に向けた取り組み

#### 第9期環境行動計画（2019年度～2020年度）

富士通グループは、中長期環境ビジョン\*1の実現やここ数年で推進すべき環境課題に対応するために環境行動計画を策定しています。2019年度より、自社事業所の温室効果ガス（GHG）排出量削減、お客様使用時の電力量削減に重点を置いた製品の提供、サプライチェーンにおける水リスクに着目した水資源の保全やプラスチック問題への対応などを盛り込んだ第9期環境行動計画を開始しています。2019年度は、すべての項目で目標を達成\*2することができました。

\*1 <https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsu-climate-and-energy-vision/>  
 \*2 <https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/action-plan>

#### 事業所におけるGHG削減施策事例

富士通フロンテック熊谷サービスソリューションセンター（熊谷SSC）は金融機関向けATM監視業務などを行っており、24時間365日止められないサービスを提供しています。自然災害などによる停電時の確実な電源確保とGHG削減の観点から、燃料電池を導入しました。これにより、熊谷SSCで消費される50%の電力を常時供給するとともに、年間のCO<sub>2</sub>排出量を約35%（2018年度比）と大幅に削減することが可能となりました。



熊谷SSCの燃料電池発電システム

#### 第9期環境行動計画目標（2020年度末目標）

気候変動	① 事業拠点のGHG排出量を14%以上削減（2013年度比）かつ自効努力により前年度から2.1%以上削減
	② データセンターのPUE（電力使用効率）を2017年度比で2%以上改善
	③ 再生可能エネルギー使用量を2017年度比20%以上拡大
資源循環	④ 製品の省資源化・資源循環性向上を推進し、新製品の資源効率を25%以上向上（2014年度比）
	⑤ 廃棄物発生量を2012～2014年度平均の5%以上削減
	⑥ 事業系ICT製品の資源再利用率90%以上を維持
	⑦ 水使用量を累計で2017年度比1%削減
	⑧ 化学物質排出量を2012～2014年度の平均以下に抑制
サプライチェーン	⑨ 製品の使用時消費電力によるCO <sub>2</sub> 排出量を14%以上削減（2013年度比）
	⑩ サプライチェーン上流におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減および水資源保全の取り組みを推進
SDGs	⑪ ICTサービスを通じてSDGsの達成に貢献

## サプライチェーン

富士通グループは、企業の社会的責任の観点でのリスクを最小化する、責任ある調達をCSR調達と呼び、サプライチェーン全体でその実現を目指しています。目標達成に向け、自社の調達活動の状況を定期的に確認するとともにお取引先における適切なCSR調達の実施と改善をサポートし、CSR調達の長期的な定着と継続的な改善に努めています。

詳細についてはこちらをご参照ください。  
<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/procurement/>

### 目標

#### ありたい姿

自社サプライチェーンにおいて、人権や環境、安全衛生に配慮した責任ある、かつ多様性に富む調達を実現する。

#### 2022年度目標

- 当社主要取引先による責任ある調達の国際基準への準拠を確認
- 各リージョンにおけるサプライチェーン多様性への社会的要請へ相応に対応、かつグループ全体の指標を設定

- KPI**
- 当社主要取引先による責任ある調達の国際基準への準拠向け、当社主力製品の主要な製造委託先・部品取引先より、下記文書のいずれかを入手する（目標KPI=100%）。
    - RBA工場監査プラチナまたはゴールド判定書
    - 当社CSR調達指針（=RBA行動指針）への誓約書

### 責任ある調達に向けた取り組み

#### BCM（事業継続マネジメント）の強化

COVID-19の感染拡大や度重なる自然災害の経験を踏まえ、全お取引先の製造拠点情報の集約、一定量の部材の備蓄、製造部材のマルチソース化、お取引先の複数拠点での製造など事前準備を整えています。有事の際には、影響を受けた全お取引先の製造拠点と対象部品の把握、当社製品の製造への影響の確認と工程見直し、お客様への納期への影響把握および調整を行い、お客様への影響を最小限に抑えています。

### 活動の方針

富士通グループは、「お取引先との共存共栄」「お取引先の公平・公正な評価・選定」「CSRに配慮した調達活動の推進」を調達方針として掲げています。この方針の下、2017年にグローバルなCSRアライアンス「Responsible Business Alliance (RBA)」に加盟、2018年にRBAの行動規範を「富士通グループCSR調達指針」として採用し、自ら遵守するとともに、お取引先に対しても理解と遵守を求めています。

### 推進体制

調達活動においては、グローバルサプライチェーン本部が関連部門と連携し、CSR調達活動を推進しています。活動の一環として、主要なお取引先の状況調査を行い、基準に満たない場合はCSR監査を実施、監査内容をもとに活動改善をサポートしています。

#### 責任ある鉱物調達

紛争を助長するリスク、あるいは強制労働や人権侵害に関連するリスクの高い鉱物を製品や部品、およびサプライチェーンから排除する方針を掲げ、経済協力開発機構（OECD）の「紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」に従って実態調査を行っています。調査はサステナビリティ経営委員会を主管とする社内関連部門による体制の下に行われ、サプライチェーンの透明性の確保と責任ある鉱物調達を促進しています。現時点では、武装勢力と関わりのある情報は確認されていませんが、引き続きサプライチェーンの透明性の確保に取り組んでいきます。